◆2021 年 11 月第 1 週の礼拝説教（召天者記念礼拝）
■日時：2021 年 11 月 7 日（日）10：30－11：30 降誕前第 7 主日
■場所：立川教会
■説教題：「信仰と行い」
■交読詩編 86：1－10（p98）
■聖書：ヤコブの手紙 2：14－26（新約 p423）
■讃美歌：385「花彩る春を」・434「主よ、みもとに」

お早うございます。

今日は、召天者記念日です。

1 年に 1 度訪れてくるこの日は、私たち立川教会の 70 年の歴史に生きた先達、及び関係者らの歩みを想い起こす日でもあります。

私は、今日の説教題を「信仰と行い」としました。ヤコブの手紙から、私たち神を信じ、その独り子である主イエス・キリストに従う者の歩みとは何かを今一度考えてみたいと思います。

14 節です。

１４：わたしの兄弟たち、自分は信仰を持っていると言う者がいても、行いが伴わなければ、何の役に立つでしょうか。そのような信仰が、彼を救うことができるでしょうか。

イエス様の弟の一人であるヤコブからの厳しい問いかけです。この問いは、私たち一人ひとりに向けられています。私にも向けられています。

朝目覚めて、今日も新たな命が与えられたことを感謝して祈り、昼、するべき仕事が与えられていることを感謝して祈り、夕べに、一日の業を無事に成し終えることが出来たことを感謝して祈ろうとも、あるいは又、週の初め、主日の礼拝を欠かさずに守る信仰生活を送ろうとも、「行いが伴わなければ何の役に立つでしょうか」とヤコブは私たちに問いかけます。

それでは、そのようなヤコブが言う「行い」とは何を指しているのかです。

15 節から 17 節です。

１５：もし、兄弟あるいは姉妹が、着る物もなく、その日の食べ物にも事欠いているとき、

１６：あなたがたのだれかが、彼らに、「安心して行きなさい。温まりなさい。満腹するま

で食べなさい」と言うだけで、体に必要なものを何一つ与えないなら、何の役に立つでしょう。

１７：信仰もこれと同じです。行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです。

なるほどと思いながら、しかし、ここで言われている「行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだもの」とはどのようなことかを考えるのです。ヤコブが言う「行い」とは、単純に考えれば、人に親切にする、困った人を見れば力を貸すことのように思えます。

しかし、ヤコブは、そのような人助けをすることと信仰とをそのまま結び付けて「行い」と言う言葉を使っているのでしょうか。

さらに、続く、舌鋒鋭くなるヤコブの語る言葉を見てみたいと思います。

18 節から 20 節です。

１８：しかし、「あなたには信仰があり、わたしには行いがある」と言う人がいるかも知れません。行いの伴わないあなたの信仰を見せなさい。そうすれば、わたしは行いによって、自分の信仰を見せましょう。

１９：あなたは「神は唯一だ」と信じている。結構なことだ。悪霊どももそう信じて、おののいています。

２０：ああ、愚かな者よ、行いの伴わない信仰が役に立たない、ということを知りたいのか。

厳しい言葉です。

ヤコブは、一体誰に向かってこの厳しい手紙を書いているのか、思わず知りたくなるほどの内容です。そして、21 節から 23 節で、ヤコブは自分の主張の根拠を挙げます。アブラハムの信仰を例にして、自分が言っていることは間違っていないと主張します。即ち、

２１：神がわたしたちの父アブラハムを義とされたのは、息子のイサクを祭壇の上に献げるという行いによってではなかったですか。

２２：アブラハムの信仰がその行いと共に働き、信仰が行いによって完成されたことが、これで分かるでしょう。

２３：「アブラハムは神を信じた。それが彼の義と認められた」という聖書の言葉が実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。

ヤコブは、創世記 22 章に記されているイサク奉献の話しを例に出し、信仰には行いが伴う、即ち、行いの伴う信仰こそ、神様によって受け入れられることを訴えます。

そして 24 節から 26 節です。

２４：これであなたがたも分かるように、人は行いによって義とされるのであって、信仰だ

けによるのではありません。

２５：同様に、娼婦ラハブも、あの使いの者たちを家に迎え入れ、別の道から送り出してやるという行いによって、義とされたではありませんか。

２６：魂のない肉体が死んだものであるように、行いを伴わない信仰は死んだものです。

以上が、今日与えられた聖書の御言葉です。

私たちは、この 4 月以降、オンラインが中心でしたが、パウロが書いたローマの信徒への手紙を学んで来ました。そこでは、律法を守ることによって神様に義とされると言うそれまでのユダヤ教の考えを真っ向から否定し、ただ神様を信じる信仰によってのみ、人は救われると言うパウロの考えを学んで来ました。そのパウロの考えと、今日のヤコブの考えとは、逆のことを言っていると思われた方もいらっしゃると思います。パウロは、ただ信

仰のみを主張しているのに対して、ヤコブは、行いの伴わない信仰は死んだも同じ、即ち虚しいものであると言っているからです。

一見、相反しているかのようなヤコブとパウロの考えですが、この両者の主張の隔たりを埋め、それだけでなく、神様を信じ、キリストに従うことにおいては、実は全く同じことを言っていることが分かる鍵となる言葉があります。

それは、”愛”と言う言葉です。

この愛を、両者それぞれの主張の土台に据える時、神を信じ、キリストに従う生き方において、二人は別の角度から同じことを述べていることを知らされるのです。

聖書をお開き下さい。

新共同訳聖書の 317 頁、パウロが愛とは何かについて書いたコリントの信徒への手紙一第 13 章です。

全文を読みます。

【コリントの信徒への手紙一第 13 章、p317】

１：たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。

２：たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無にひとしい。

３：全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしは何の益もない。

４：愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

５：礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

６：不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

７：すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

８：愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう。

９：わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。

１０：完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。

１１：幼子だったとき、わたしは幼子のように話し、幼子のように思い、幼子のように考えていた。成人した今、幼子のことを棄てた。

１２：わたしたちは、今は、鏡におぼろげに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔とを合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきりと知られているようにはっきり知ることになる。

１３：それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

ここでのキーワードの”愛”と言う言葉。

愛とは何でしょうか。

愛するとは、どのようなことでしょうか。

イエス様は、最も大切な戒めとして、第一に神様を愛すること、第二に自分を愛するように隣り人を愛することを命じられました。その愛です。

イエス様が言う愛も、パウロが言う愛も、そしてヤコブが言う「行いを伴う信仰」も、
皆、同じことを言っていると思います。

即ち、愛するとは、隣人に関わること、そして、その負っている荷を共に負い、その荷を少しでも軽くすること、それに尽きると思います。

そして、隣人とは誰かです。

もう一ヶ所、聖書を読みたいと思います。

先々週、中川和子さんが奨励で取り上げた聖書の箇所です。

【マタイによる福音書第 25 章 31－40 節、p50】

３１：「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。

３２：そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、

３３：羊を右に、山羊を左に置く。

３４：そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちに用意された国を受け継ぎなさい。

３５：お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、

３６：裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』

３７：すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。

３８：いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。

３９：いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』

４０：そこで、王は答える。『はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』」

私たちにとって、助けを必要とする全ての人の隣人になれるわけではありません。

私は、隣人とは選び取る存在だと思います。

自分が選び、そして隣人になるのです。

立川教会は、コロナ禍において、ささやかな献金を「あしなが育英会」に送りました。

アルバイトが出来なくなり、学業を続けることが困難になりつつある学生さんを支援するためです。その献金は、看護師になるために専門学校で学んでいる学生へと用いられました。結果としてですが、私たちは、その学生の隣人となりました。

立川教会で共に礼拝を守った多くの先達も、神を愛し、隣人を愛するその教えを全うして、

この世の旅路を終えられました。今なお、世に在って生きることが許されている私たちは、今日のヤコブの手紙から、又、パウロのコリントの信徒への手紙から、そして、イエス様の語られた言葉から、イエス様が負われた十字架の意味を知り、その後に従い、先達らの歩まれた道を尋ねつつ、私たちも又キリストに従い行く者となりたいと思います。

祈りましょう。